

ティーチング・ステートメント

所属 観光マネジメント学科

氏名 恩田 登志夫

作成日 2020年3月14日

【責任】

観光マネジメント学科に所属し担当している科目は、経営学分野における貿易・物流分野を担当している。主たる担当する科目は、ロジスティクス論、国際物流論、ゼミナールとキャリア形成である。

【理念】

私の教育理念は、今後想定される激動する社会の変化に対応できる学生を育成することである。今後想定される激動する社会とは、ITや通信速度の発展により、従来の経済活動が「AI化」「IOT化」が進み、誕生する社会のことである。この社会では、従来の経済活動が基本的に存在し、新しい付加価値と融合することにより、発展していくことが考えられる。したがって、横浜商科大学の学生には、実際の実務がどのように行われ、今後どのように変化するのか、またどのような付加価値と融合することにより、新たな創発が生まれるのか、自ら思考できる能力が求められる。したがって、自らが思考し、実践し、修正、改善できる問題解決能力とリーダーシップ能力を備えた学生を育成したい。

【方針・方法】

上記の理念を実現するために、少人数クラスの授業であるゼミナールでは、「ゼミ長中心に運営する」「現場を知る」「プレゼン力をつける」「研究意識を高める」という方針のもと活動する。

「ゼミ長中心に運営する」

- ・ ゼミ長（1名）、副ゼミ長（2名）は学生が選ぶ。ゼミ長、副ゼミ長は、1年間で交代することにより、多くの学生がリーダーシップ能力を鍛えられる環境を提供する。
- ・ ゼミの運営とスケジュール管理は、ゼミ長がゼミ生と相談し決定する。
- ・ 新ゼミ生募集活動は学生が中心に行う。（説明会、面接、ゼミ生の一次合否判断を含む）
- ・ ゼミの現地調査・合宿の日程、手配は、学生が行う。

「現地、現場を知る」

- ・ 学生が、現地調査の日程、場所を決定し、調査目的を明確にする。
- ・ ゼミ内にて、業界人、学識経験者から講義を受ける。
- ・ 現場における作業員が行う作業では、機械化できる作業と機械化できない作業や技能は何かを知る。

「プレゼン力をつける」

- ・ 現地調査後、フィードバックとしてゼミ内にてプレゼン、ディスカッションすることに

より、問題点を抽出し、確認することにより現地調査の改善に活用する。

- ・ 他大学とのゼミ共同発表会にて発表することにより、研究に関するフィードバックを得た後、ゼミ内で振り返りを行い、研究の改善に活用する。

「研究意識を高める」

- ・ ロジカルライティング技法を指導することにより、その技法を身に着ける。
- ・ 論文の書き方を指導することにより、その手法を身に着ける。
- ・ 研究のための経済理論を指導することにより、その研究の意義・目的を理解する。

【評価・成果】

*分量の目安：4-7行（160-280字）

*自分の行った教育活動の評価・成果を箇条書きで示します。

- ・ 新ゼミ生募集活動は学生が中心に行ったことにより、応募者が昨年に比べ7倍に増加した。
- ・ 昨年秋から学生主体の現地調査を実施したところ、自ら現地調査の行動スケジュールを作成し、プレゼンまで学生が主体的に行うことができた。

【目標】

- ・ 学生自ら調査したことをベースに仮説を立てて、仮説を検証することができる。

（2021年9月）

- ・ 他大学とのゼミ共同発表会に参加する。現在、法政大学、神奈川大学、富山大学、武蔵野学院大学が実施しているゼミ共同発表会に参加する。（2021年11月）